

一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会
 〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
 日本聖公会東京教区会館内
 3-6-18 Shibakoen, Minato-ku, Tokyo
 TEL 03-3436-4325 FAX 03-3432-1696
 http://www.brotherhood-st-andrew-japan.org

BSA 会報《季刊発行》

発行人 足立征三郎
 編集者 萩谷長生
 印刷所 株式会社スコリージョン

BSA第103総会
 2019年度事業活動計画・
 会計収支予算(案)を承認

日本聖徒アンデレ同胞会(BSA)は昨年11月24日(土)、東京教区聖マルコ教会で第103総会を開き、2019年度事業活動計画・会計収支予算(案)を承認した。

評議員会・理事会

総会に先立ち、評議員会を開き、第1号議案2019年度の事業活動計画・第2号議案会計収支予算案について執行部から説明した。それに対して出席者から「100周年プロジェクト」について、予算措置を含めた具体的な提案が出たが、足立会長は「まだ発足していないので、ご意見として承る」と答えた。

また事業活動計画1-15の「BSA案内パンフレット作成、配布」の項について修正を求め意見が出された。検討した結果、「BSAの理解を得るため、新しくパンフレットを作成する。後半部分を「...」とパンフレットの見直しを検討する」と改めた。

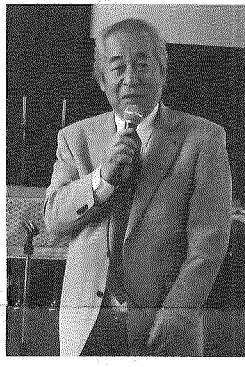
「立教大学BSAとの関係強化が必要だ」、「いろいろな場に出た意見を聞き放しにしないようにしたい」、「支部長会議を年度の早い時期に開いて欲しい」という要望も出た。このあと、評議員会は、第1号議案および第2号議案を総会に提出することを理事会に具申しした。

感謝礼拝聖餐式

午後5時の冒頭に感謝礼拝聖餐式が行われた。司式は聖マルコ教会支部チャプレンの佐々木庸司祭、補佐は本部チャプレンの条裕章司祭、説教は本部チャプレンの高橋宏幸司祭が行った。また、聖マルコ教会の戸川達男、島崎敏彦の各兄、浅見国典、川典子姉が奏楽をそれぞれ勤めた。

100周年に向けてスタート

続いて行われた総会には正会員(議決権者)200名のうち35名が出席した。委任状提出者が73名で、合わせて108名となり、定款の規定により、総会は成立した。足立征三郎会長は、挨拶で「2018年2月の総会後に会長に就任して以来、会員に直接挨拶するのは今日が初めてである。



寺内、黒田、砂田各顧問にご出席いただいたことを光栄に思う。春には「BSA90年誌」が完成し、みなさんから多くの励ましを受けた。2019年度からは、これまでであった公益目的の基金がなくなり、会費収入が予算の中心となる。BSAにとって大きな変わり目の年となる。そうした中で、キリストにつながる人を招き寄せ、活動をしたい。90年の歴史と反省に立ち、100周年に向けて前向きに進んでいく」と決意を語った。

インフラ整備の初年度

事業活動計画案では、2019年度をBSA創立100周年に向けての準備の初年度として、BSAの「インフラ整備の年」と位置づけている。具体的には、

- 1 BSAの裾野を広げ、支
- 2 BSAの露出度を高め、
- 3 認知度をあげる。
- 4 会員一人一人を大事にする運営

「BSA創立100周年プロジェクト」(仮称)の立ち上げ、青少年キャンピング、BSAセミナー、研修旅行、支部長会議、「BSA創立100周年プロジェクト」(仮称)の立ち上げ、機関紙VISIONの発行などの諸活動を展開する。

財政自立の年

また、財政面では、旧法人から引きついできたBSA基金とポールの記念基金が2018年度で終了する。今後は会の主たる収入は会費のみとなるため、その範囲内で活動計画を考へることが必要となる。

2019年度の事業活動収入は、2,475,000円、支出は、2,475,000円、収支差額は△350,000円の予定。事業活動収入のうち、会費収入は700,000円を見込んでいます。会費の納入率を高めることと会員の増加を図ることが、財政を左右することになる。これについて後藤理事は、VISION164号で「数字だけを見ると、悲観的なものしか見えてこないようにも思える。しかし、BSA本来の精神であり、祈りと奉仕を通して良き知らせを広める信徒活動の原点に返るならば、この機会を創立100周年を目指す新たな挑戦の時と捉え、小さな力しか持たない者かもしれないが、この財政状況乗り越えて、御国の実現に向けてなすべきことを見出せるのではないかと述べている。

質疑応答

○ 総会での主な質疑は以下の通り。
 ○ 財政再建はしつかり考えるべきだ。今のままでは100周年まで持たない。会費収入は100%が当然だ。会費の納め方、また、外部とのつながりを強くすべきだ。BSAのバッジを更新してはどうか。女性の正会員化を急ぐべきだ。(金子真兄)

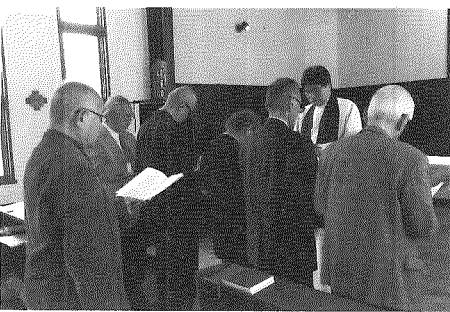
○ 中長期計画の見直しは大事である。先輩が積み上げてきたことを大切にしたい。前に進んでいきたい。女性の正会員化や会費のあり方については賛否両論がある。慎重な議論が必要だ。バッジは現行のままでもいいと思

う。「大事なことは、祈りと奉仕だ」と支部の先輩もいっている。中部教区に支部設置を提言して欲しい。(松岡正治兄)
 ○ 一般社団法人認可に際して、役所から次の3点を求められた。
 1 公益性の確保
 2 事業が不特定多数の人に開かれていること
 3 公益事業が50%以上であること

この際、資金源開拓プロジェクトを作つてはどうか。(正木真兄)
 ○ 政府のいう公益性と教会のいう公益性は相反する面がある。宗教法人と財団法人はどちらに比重を置くかを考へながら進めて欲しい。(寺内安彦兄)
 総会は、中間報告、第1号議案および第2号議案をそれぞれ承認して閉会した。

新しく6人が入会

聖餐式の中で、2018年に新しく会員となった兄弟の入会式および再宣誓式が行われ、パウロ小林誠(盛岡聖公会)、グレゴリオ大山省二(真光教会)、ルカ野田義文(真光教会)、サムエル中野欣一(真光教会)、パウロ高崎健一(聖マルコ教会)、そしてパウロ福永澄(聖マルカレスト教会)の6兄弟が入会した。欠席した小林誠兄、高崎健一兄を除く4人に下条チャプレンがBSAのバッジを渡して入会を祝福した。



公 示

一般社団法人日本聖徒アンデレ同胞会第104総会を左記のとおり開催いたします。

2019年1月28日
 会長 足立征三郎

日時 2019年2月23日(土) 15時から
 場所 東京教区会館 3F会議室

議案 2018年度事業活動報告及び会計収支決算(案)並びに余剰金処分(案)承認の件

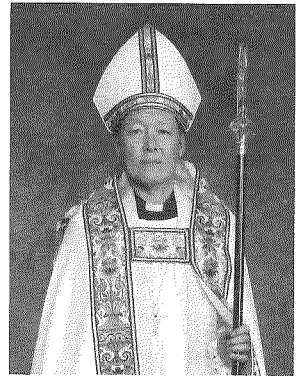
BSA・キープ協会共催
 青少年キャンプ案内

残雪の清里 自然と触れ合う3日間
 期日 3月25(月)〜27日(水)
 場所 キープ自然学校 山梨県北杜市高根町清里
 対象 小学校4年生〜中学生
 募集人員 20名
 申込締切 3月4日(月)
 参加費用 18,000円
 交通費の半額はBSA負担
 問合せ先(電話)
 BSA本部 03-3436-4325
 キープ協会 0551-48-3795

参加ご希望の方にはBSA本部から申込書をお送りします。

キープ創立記念礼拝にて

横浜教区主教 イグナシオ 入江 修



清泉寮は80年前、キリスト教指導者研修施設として、キープの母体である聖徒アンデレ同胞会(BSA)によって建てられました。

BSAは、当時、立教大学で教鞭をとっていたポール・ラッシュ博士により、1927(昭和2)年にアメリカBSAの日本支部として発足したものです。その後、1931(昭和6)年にアメリカ支部から独立し「日本聖徒アンデレ同胞会」

(BSA)が、男子、特に男子青年の間に「キリストの御国を拡張するために『祈り、奉仕する』ことを目的とする」主旨に賛同した聖公会男子信徒有志によって組織されました。

「祈り」とは全ての人、特に男子青年の間にキリストの御国が拡張されるように祈ることであり、かつ、BSAの働きが真に神の御旨にかなうものとなるように毎日祈ること、「奉仕」とは会員一人一人が、出来ても出来なくても、毎週一人を教会に導くために絶えず積極的な努力を試みることで、「祈禱」と「奉仕」は会員一人一人を結ぶBSAの精神的支柱でした。

この、「一人を教会に導く」ということの元が、聖ヨハネ福音書1章35以下で自分の兄弟であるシモンをイエスさまのもとへ連れて来た聖アンデレです。キープのシンボルであり、清泉寮本館正面に掲げられているX

高橋宏幸主教就任式

東京教区 フランシスコ・ザビエル

1月14日(月・祝日) 香蘭女学校礼拝堂においてフランシスコ・ザビエル高橋宏幸師の主教就任式が行われました。

日本聖公会全教区の主教、大韓聖公会からソウル教区などから三主教、立教大学総長、理事長はじめ国内外の聖職、信徒約一二〇〇名が参列しました。

按手式は植松誠首座主教の司式で行われ、説教は2回にわたって東京教区管理主教を勤められた北関東教区の広田勝一主教が関東大震災後初めての邦人主教である、元田作の進主教のエピソードを話され、新主教は「霊性」をとて大切に考えておられる方、と紹介されました。

新主教着座後、高橋主教司式による記念聖餐式が執り行われました。その後の来賓の紹介では、独身を守られて高橋主教のご親族としてご令兄一家が



足立・尾崎正副会長からスカーフを贈呈

高橋宏幸主教は一九五九年生まれ五九歳。立教大学、聖公会神学院を経て一九八八年に司祭按手され、聖三一教会、聖愛教会、三光教会牧師、二〇〇九年から香蘭女学校専任チャプレンなどを歴任されました。

紹介されました。引き続き体育館で茶話会が開かれ、新主教を囲み写真撮影など、和やかなひとときが持たれ、この時BSAからは記念のスカーフを贈呈しました。

型の十字架は、聖アンデレが殉教して磔にされた十字架の形です。

戦争が始まり、ポール博士はアメリカに強制送還されますが、戦後、いち早くGHQの少佐として戻り、日本の農山村における新しい農村コミュニティの建設を通して、キリスト教に基づく民主主義を社会に普及、定着させることを目的に「食糧・健康・信仰・青年への希望」の4つの理想を実践する施設として清里聖アンデレ教会をはじめ、高冷地実験農場、聖ルカ診療所、聖ヨハネ保育園、農村図書館、農業学校などをアメリカやカナダなど多くの市民からの寄付によって建設したのです。

現在は、更に「環境教育」と「国際交流・協力」を加えて、歩みが続けています。さて、そのポール博士の有名な言葉は、
"Do your best, and it must be the best class."です。ポール博士を「おやじさん」と呼び、戦後のキープ設立当初からこの働きに携わって来られた方によれば、ポール博士の言葉の末尾に

は、「God」、つまり「神にあって」という言葉があったということだ。実際にいつも必ずそのうたったのかどうかは別にして、それは、ポール博士の生き様を実際に見て、博士と共に歩んで来られた方の証として聞くならば、真実でしょう。

"Good bye, May God be with you." つまり、「神があなたと共にいらつしやるように」という「祈り」の言葉だったと言われます。ポール博士の生き様が示しているように、その言葉の最後に常に「God」、そして「祈り」、goodの語源がGodであるとするなら、ポール博士のいうGodとは、私たち人間の目で見ている「最善」というよりも神の目から見た「最善」を指していたと言えましょう。そうであれば、この「Best class」もまた、私たち人間の目から見た「一流」ではなく、神の目から見た「一流」を指しているのだでしょう。

それが、ポール博士がGod、そして「Best class」と語った言葉

小さな村の小さな教会

練馬聖ガブリエル教会 ヨハネ 松平謙次

岩手県の南部をほぼ横断する形で大船渡線というローカル線が走っているが、(一ノ関)大船渡、この沿線に折壁という小さな駅がある。この辺りは今は一関市に併合されているが、かつては東磐井郡根村折壁という地名であった。この地に1960年、東北教区の戦後2番目の教会として室根聖ナタエル教会が建設、献堂された。BSA第3支部との関係については、2016年のVISION156号に小文を書いた。文字通り小さな村の小さな教会であった。立大BSA第3支部とその後を引き継ぐ形になったチャペル関係団

体有志による活動は、中断の時期を含めて約40年間続いたが、1990年代の終わりに終止符が打たれた。

この数年、第3支部OB有志の教会訪問が復活したが、昨年、長い間この教会の管理牧師であった越山健蔵司祭が定年退職され、盛岡聖公会の林国秀司祭がその任を引き継がれた。そして昨年、東北教区主教に着座された吉田雅人新主教が室根聖ナタエル教会を巡回し、同師の司式・説教による同教会信徒の逝去記念礼拝が11月7日に行われることになった。林司祭からその報を受け、我々OB3名がその日折壁を訪れ礼拝に出席することになった。

この小さな教会で主教の司式・説教による礼拝が行われたのはいつ以来のことか行われた。この記念すべき礼拝に出席したのは仙台から主教ご夫妻、室根出身の信徒の方、現在気仙沼で働いている信徒の方、盛岡から林司祭ご夫妻、室根出身の信徒の方、BSAの赤坂支部長、それに我々3名の計11名の

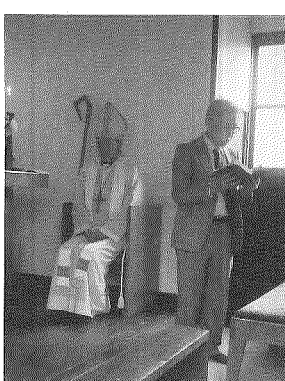
の本来の意味になります。それは、BSAの拠り所である「祈り」と「奉仕」から来ています。「祈り」によって「奉仕」は神の視点からの「最善」、また「一流」を目指すものとなり、「祈り」は「奉仕」という見える形で現わされてゆくからです。

「祈り」はキープの働きを神さまにつなげ、建物の下の見えぬ土台のように、今もキープの働きを支えています。聖アンデレ教会がキープのいちばん下(入口)に位置しているのは、そのことをよく表しているのではないのでしょうか。

キープが掲げている「食糧・健康・信仰・青年への希望」、そして「環境教育」と「国際交流・協力」という理想を根底において動機づけ、その土台となっているのが「祈り」であり、それが「God」の心、すなわち「神にあって」なのです。

ポール博士がその基とした神により据えられた土台の上に、私たちは今日からまた新たなキープの歩み、そこに積み重ねていきたいと思います。

であった。主教は説教の中で、神学生時代に同級生と共にこの地を訪れたことがあり、実に40数年ぶりの再訪であると話された。我々は不思議な縁に驚き、また深い感慨を催させられた。



礼拝後は懇親の時間を持ち、自己紹介に続き、村中挙げての一大イベントであった教会献堂の思い出、立大BSAの活動について、教会の今後についてなど、様々な話題が次々に繰り広げられ、あつという間に時間が過ぎていった。現在実質的な在籍信徒はおらず、管理牧師の林司祭も頻りに訪問することは難

南町田支部11月例会報告

アブラハム 松田正人

支部例会を2018年11月30日開き、武藤六治主教・BSA名誉チャプレンと顧問の砂田都郎さんをお迎えした。

武藤主教からポール・ラッシュのお話しを伺った。武藤主教はエレミヤ書20章7節を引用、

主よ、あなたがわたしを惑わし、わたしは惑わされて、あなたに捕えられました。あなたの勝ちです。

ポール・ラッシュも運命的に日本に、立教に、清里に、そしてBSAに導かれた人、主に負けた人である。私たちがクリスチャンも好むと好まざるとにかかわらず、主の備えた道を歩む「主に負けた人たち」であると云えるかもしれないと話された。

そして「1883年シカゴの教会に集められ、BSAを発足させた若者は12人。南町田支部も今会員が12人。いささか年齢にギャップはあるが何かを始めるとにふさわしい人数である。また、支部の中心真光教会はその元をたどれば、ウィリアムズ主教が1874年深川西元町に建てた教会(当時の名前は聖三一教会)で、アメリカのBSA発足よりも約10年も早いはないか。」とわたしたちを励ましてくださった。

「礼拝と祈り」を大切にする教会の地味な活動、BSAの本来的な働きを中心にしたさいとアドバイスしてくださった。

(南町田支部長)

しいなど、多くの問題を抱えてはいるが、今まで熱心な信徒と多くの支援者の熱い思いによって支えられ存続してきたこの教会の灯を絶やさない我々、長い間関係を保ってきた我々、今後も遠くからではあるが見守り、できる支援を続けていきたいと思います。

(写真は聖書朗読する赤坂徹兄)

BSAセミナー 「外国人墓地埋葬と 聖公会祈祷書による 葬儀」に参加して

茂原昇天教会
リベカ 永井真由美

1854年2月にペリー艦隊のミシシッピ号乗員の水兵ロバート・ウイリアムズが死亡、本村(元町一丁目)にあった増徳院に埋葬されました。その際、艦隊の乗員たちが柩を担ぎ葬列を作り、笛、太鼓を鳴らし増徳院へと行進しました。その様子を描写した画は横浜の開港資料館に所蔵されています。

葬送式はペリー艦隊の従軍司祭ジョンズ師が聖公会の祈祷文を用いて司式。増徳院住職阿闍梨圭巖師も参列、アメリカ人一行が退いた後、住職はお経をあげ、お香を焚き続けました。その当時の日本人にとって外国人、キリスト教は物珍しく嫌悪を抱く心配さもありましたが集まった群衆は、強い好奇心を抱きながらも礼儀正しく敬意を払い、静かに葬列を眺めていたと記録されています。当時の人々は外国人、異教徒の区別なく「死」に対して敬虔であったように思われます。

午後から、山手外国人墓地を見学。幕末から明治時代に葬られた方々の中には、今まで日本に無かった技術を伝え、宣教師は教育、特に女子教育に貢献、また欧米の文化も多く伝えられました。日本の為に尽くされ、文字どおり異国の地に骨を埋められた方々です。

帰りに賑やかな山手、元町を通りながら160余年前の事を思い感慨深いがありました。

横浜聖アンデレ教会
ステパノ 高橋 保

「外国人墓地始め」は、参加者も多く興味深い内容でした。

私自身歴史が大好きで、地元郷土史研究会「黒船研究会」に入っており、話の内容は大体承知していましたが、水兵ウイリアムズが埋葬された増徳院の場所は知りませんでした。今回確認出来て納得しました。これが日本で初めての聖公会祈祷書による葬儀です。ちなみに礼拝は1853年7月10日、旗艦はサスケハナ号(上海でミシシッピ号より旗艦に交替)ですが、チャプレン、ジョンズ司祭はミシシッピ号に乗船です。ミシシッピ号で行われていました。多分。

なお私の教会、横浜聖アンデレ教会信徒森 利子さんは、外国人墓地に埋葬されているドイツブレメン出身アーレンス兄弟のヘルマンさんのお孫さんです。兄弟の会社の跡(旧外国人居留地29番地) ニューグランドホテル裏の通りに、横浜市によって記念プレートが立っています。

そんなことで私には有意義な会でした。BSA活動で青少年の育成も大切ですが、30、40、50代の壮年が集まるような企画が必要だと思えます。皆さん長生きです。少年は、今でいえば、30、40歳ではないでしょうか。これからの時代には、個々の教会を超えた信徒の活動が重要と、痛感しています。

真光教会
サムエル 吉田昌夫

幕末のペリー艦隊(黒船)の水夫が横浜沖に停泊中に死亡した時、葬儀がいかに行われたかという、開国の大きな転換の一般にはほとんど知られていないお話を聞きました。

まだ鎖国中の1854年に、船のマストから落ちて死亡したという水夫の遺体を、ペリー提督の求めに応じて日本の地で葬儀を行い、お寺の地所に葬るといふことを、静かに見守った横

浜の人たちの心の広さと寛容さに、感銘をうけました。この時の葬列の絵を根谷崎氏が見せてくださいました。葬儀は艦隊の従軍司祭の司式で行われ、その後仏僧がお経を誦じ、集まつてきた群衆も礼儀正しく敬意を払っていたという。今はないこのお寺の位置も判っており、その後も外国人の死者がその付近に葬られるようになって、外国人墓地ができてきたそうです。

埋葬された水夫の名前は、のちにアメリカから初代の聖公会主教として日本にいられたウイリアムズ主教と同じ姓を持つロバート・ウイリアムズ(24才)で、日米和親条約が調印されたのち、開港された伊豆の下田の玉泉寺に改葬されたということ。

お話しは、この由緒ある山手聖公会の聖堂内でおこなわれ、出席者にはBSA会員以外の方も見受けられ、男女合わせて50名ほどでした。皆静かに講演に聞き、初めてアメリカと日本の接触が始まった時期の、知られざる話をお聞きしたのは私だけだったでしょうか。

聖徒アンデレ同胞会事典
改訂版発行

聖徒アンデレ同胞会事典の第7版がこのほど発行され、会員をはじめ関係者に配布された。本事業の初版は1932年に発行され、その後ほぼ5年置きに改訂を重ねてきた。しかし、1983年の第6版を最後に30年以上にわたって改訂されるこ



となく、そのままになっていた。2017年になって、野田徹理事が改訂版の発行を提案、1年間かけて理事全員で、活用し耐える内容を検討してきた。そして2018年11月24日の第103総会に合わせて改訂第7版の発行にこぎつけた。旧版の見直し、改定にあたって野田理事の精力的な尽力に対して深甚なる謝意を表したい。大きさは新書版より少し幅広で、47ページ。構成は、「BSAとはどんなものか」、米国版BSAハンドブックによる「同胞会の働き」、「使徒アンデレについて」、資料として日本聖徒アンデレ同胞会の定款他となっている。会員各位が日常活動において活用されることを期待している。(理事 ダビデ 吉松英美)

ポール・ラッシュを偲ぶ集い
昨年11月9日(金)、ポール・ラッシュに秘書として仕えた廣嶋都留さんを囲む会が東京で開かれた。会を主催したのは、ニューヨークを中心に霊的奉仕活動をしている聖公会の人たちのグループ・MJM。そのうち日本に帰国した人たちが毎月例会を開いている。三浦万都美さん(聖オルバン教会)ら12人が集まり、映画「夢かける高原・清里の父ポール・ラッシュ」を鑑賞した。映画のあとは、廣嶋さんのポール・ラッシュの思い出にお茶を飲みながら耳を傾けた。廣嶋さんによると、ポール・ラッシュは、聖路加国際病院のトイスマー博士から頼まれて、アメリカでの資金集めに同行した時に募金集めのノウハウを学んだという。

ポールは他人との出会いを大事にし、手紙を出す時には、相手の肩書きや呼称に細心の注意を払ったという。手伝いの人には、中に入れて取り出せるように入れること、切手は歪みがないように貼ることと厳しく注意したという。



また、返事は受け取った日に書くこと、何事によらず、いわれたことは、直ちに「するよう指示したという。廣嶋さんがポール・ラッシュから学んだことは「希望を持ち続けること」であったという。とかくポールだけが目立つが、本人は「陰の人」で、周りで多くの人が彼を支えていたという。聞いていると、すぐ横にポールがいるような現実感のある話ばかりで、時間の経つのも忘れるほどであった。

この日は武藤六治主教、BSA名誉チャプレン、BSAの吉松英美理事も出席した。(理事 ダビデ 吉松英美)

ポール・ラッシュ逝去記念礼拝
ポール・ラッシュ逝去記念礼拝が昨年12月12日に清里聖アンデレ教会で行われ、キーブ協会の桑田秋光副理事長や、「清里の父、ポール・ラッシュ」の著者井尻俊之氏、BSA清里支部会員ら関係者多数が出席した。礼拝では大野清夫司祭が、清里におけるポール・ラッシュの働きを紹介し、その功績をたたえた。礼拝後は教会の納骨堂で祈りを捧げ、故人を偲んだ。(理事 アブラハム 野田徹)

会長 福岡支部訪問
1月20日(日)に足立征三郎会長と萩谷長生理事がBSA福岡支部を訪問し、同支部会員の交流会を開きました。その詳細は次号(VISION第166号)に掲載します。

★一般ご家庭の引越 事務所引越
★オフィスの引越 のエキスパート!!
★フロアへの移動
★各種展示会セッティング etc..
Grec 株式会社ギンテック
港区港南3-4-12
TEL 0120-223-008
TEL 3471-5313

ホームメイド・チーズケーキの店
CHEESE CAKE JOHANN
HOME MADE
和 田 博 子
目黒区上目黒1-18-1
TEL 3793-3503

立教企画グループ
学校業務受託、人材派遣等承ります。
株式会社 立教企画
株式会社 立教オフィスマネジメント
株式会社 立教ファシリティマネジメント
株式会社 立教ライブラリーマネジメント
http://www.rikkyo-planning.co.jp

清里高原だより 清泉寮ニユース

「寒いほどお得フェア」ほか 冬の清泉寮の楽しみ方

八ヶ岳南麓・清里高原はウィンターシーズンの真っ盛りです。八ヶ岳周辺はこの時期、内陸特有の湿度が低い澄んだ空気が流れ込むため、目を見張るような深い青「八ヶ岳ブルー」の空を見るのができます。星空を眺めるのにも最適の季節です。この季節を皆様に目一杯お楽しみいただくため、冬ならではのイベントや特別メニューをご用意しております。ぜひ清里高原へお出かけください。

●冬眠ヤマネの特別展示

清泉寮やまねミュージアムでは、冬眠中のヤマネの特別展示を行っています。春・秋は生きている本物のヤマネを公開することができないため、ヤマネが冬眠している間だけの特別展示です。ヤマネにストレスを与えないよう暗くした特設コーナーで、身体をボールのように丸めて眠るヤマネの様子を見ることが出来ます。ヤマネが冬眠から目覚めてしまった場合は展示を休止します。お問合せは「やまねミュージアム0551-48-3577

●限定メニュー&スイーツ

清泉寮ファームショップでは、限定のラーメンやパンケーキなどをご提供しています。有機ジャージー牛乳と信州味噌の相性が抜群な「ジャージーMISOヌードル」やジャージー牛乳に胡麻やアーモンドミルクを加えた「麻辣ジャージー



●寒いほどお得フェア

その日の気温が低ければ低いほど、参加店の対象商品がお得になる冬の一大イベント。最大割引率はなんと50%！

今年の開催期間は1月12日、2月17日、八ヶ岳南麓の77店が参加します。清泉寮では、ソフトクリームや本館レストランのカレーセットなどが対象になります。

昨年は開催日の4割が50%オフでした。今年は暖かくて割引が少なかつた日でも、カードを

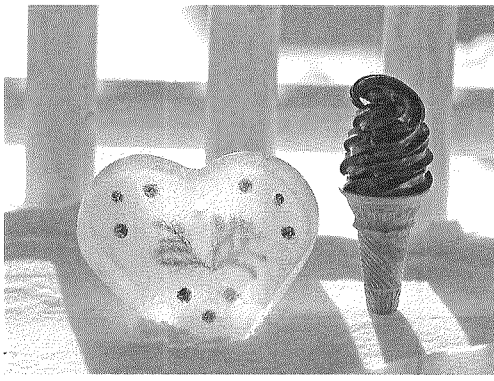
集めると抽選に参加できる企画も加わってチャンスが広がりました。

詳しくはWEBサイトをご覧ください。
<https://tenkukaku>

●清泉寮チョコソフト

清泉寮名物のソフトクリームは、普段はミルク味のみですが、バレンタイン期間だけチョコクリーム味のソフトクリームが登場します！レシピを研究し吟味を重ねた濃厚なチョコの味わいをお楽しみください。

提供期間は2月1日～2月14日です。さらに14日のバレンタインデーには、清泉寮周辺にスタンプ作りりのハート型氷のリースを飾ります。



他にも「冬のヘイライド」や「雪バナナ」などのアクティビティもご用意しています。

冬の情報は清泉寮WEBサイトで発信していますので、ぜひ事前にご確認のうえお越しください。
<https://seisenryojp>

銀座朝拝会950回

銀座朝拝会が昨年10月23日、通算950回を迎えた。この日は、大畑喜道主教、チャプレンの佐々木庸司祭、世話人の松田正人さん（BSA評議員）ら9人が参加してお祝いした。

銀座朝拝会は、1973年に信徒の聖書研究とお祈りの場として日本橋天野歯科を会場に始まった。天野さん一家は三光教会の信徒であった。出勤前の一と時、祈りを共にしてから職場に向かうのが朝拝会の精神であった。

BSA90年誌には、「2003年3月13日に30周年記念会を聖アンデレ教会（東京）で行い、51人が出席した」とある。

ある時期から、BSA会員の坂本明夫さん（聖アンデレ教会）が朝拝会の世話人をするようになり、BSA会員も数人参加していた。BSAの歴史に名を残している八木立三執事も一時世話人をしていった。

坂本さんが病気のため世話人を辞し、その後松田正人さん（真光教会）が引き継いだ。

開始以来、会場は銀座教文館、三原橋コチワビル、喫茶ルノワールを経て、現在は銀座3丁目のスターバックス・マロニエ通り店に移っている。

毎月第2、第4火曜日の7時半から、東京銀座で例会を開いている。

なお、BSA90周年誌の年表では、2003年3月13日の項で、朝拝会の発足を1937年としているが、正しくは1973年の誤り。

（理事）ダビデ 吉松英美

「VISION」文芸

松岡正治
礼拝で久々に会う友の居て
老いても残る若き笑顔や
教会に向かう小道を歩むれば
落ちしばかりの銀杏拾う

説教で心打たれし事あれば
帰りの道の足は軽やか

小仏の続いておりし遍路道
行き倒れせる遍路を想う

焼夷弾段々近くに落ちてくる
友の訃報を耳する毎に

早禱に向かう坂道登るれば
シヨウ先生の歩きし道か

吉松英美
新しき主教にわれらの期待あり
道険しければともに歩まん
この年を百周年の初年度と
会長所信の四方に響けり

囚われの三年苦しみに耐えてあり
ジャーナリストの身を賭す闘い
マルクス史家藤間正太百五歳逝く
代表作に「埋もれた金印」

大嘗祭見直し論に世論沸く
皇室に吹く新しき風
今年またボールの命日迎えたり
高尾の丘の墓を訪ねん

歓迎新入会員

パウロ 高崎健一 (聖マルコ教会)
パウロ 福永 澄 (聖マーガレット教会)

新刊案内

主教 フランシス 森 紀旦著
改定増補 『マラナ・タ
— 楽しい日本聖公会
祈禱書入門 —』

発行 日本聖公会京都教区
B6判 142ページ
定価800円

BSA通信第2号の発行

BSA103総会の報告を
「BSA通信」第2号として発

行、「管区事務所だより」、各教
区の教区報等の編集責任者に発
送し、各メディアを通して周知
されるよう依頼した。

訃報

シメオン 山川義光 兄 (83才)
(柏聖アンデレ教会)
(2018年12月24日逝去)

編集後記

・昨秋就任された横浜教区
主教からのメッセージと1
月14日に行われた東京教区
主教就任式の模様を2面に
併載しました。両師父の新
たな働きの上に主のみ恵が
ますます豊かに与えられん
ことをお祈り申し上げます。
・時節柄か会員数名の体調
不良の報。各位、ご自愛の
ほど。(N・H)